

地域自主組織『まちづくり大山』  
まちづくりの輪を広げます!

まちづくり大山では、これまで多くの地域課題に取り組んできましたが、昨年度から女性や子どもたちも当たり前、まちづくり活動に参加していきけるベースを築いていこうと、『チームわとなり』を結成しました。

『チームわとなり』は、女性や子ども、子育て世代の方たちの意見を今まで以上に積極的に取り入れ、負担なく参加しやすい環境を整えるための新しい取り組みです。今まではあまり注目されることのなかった「目には見えないけど大切なモノ」に焦点を当て、コミュニケーションを重ねていくことに重点を置きます。

まず、一人ひとりが他の人とのコミュニケーションを介して自分自身を客観視することにより、自らが既持っている能力や価値観・特性を自覚します。次に、それを活かして、助ける側、助けられる側という固定された一方通行の関係性ではなく、ある時は助けてもらい、ある時は手を差し伸べるといった双方向の関係性をつくっていきます。

また、「目で見えているモノ以上

に大切なモノ」を、より多くの人が実感・共感し、「相手の幸せ＝自分の幸せ」と考える人や、相手に寄り添って物事を考える心の持ち主が増えて、より居心地のいい地区になればと考えています。

これまで取り組んできた『のびのび』もその思いから始めました。『のびのび』は、大山地区の子どもたちが、長期休暇中に地区の中で安心して、楽しく集まって過ごせる居場所



▶のびのびまちづくりミーティング

づくりとして、昨年の春休みから運営しています。

これは、保護者の負担を軽減する目的もありますが、見守り役として様々な立場の大人に関わってもらうことで、子ども・地域の方・保護者などの間に、新しい関係性が自然に構築されていくことにもつながります。

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、3月3日から休校措置が講じられることとなり、大山農村環境改善センターに開設された『のびのび』では、春休みから予定していた運営を、休校にあわせて早めました。

休校中は、学校も開放されましたが、毎日約15人の子どもたちが来て、思い思いに楽しく過ごしました。急な予定変更にも関わらず、『のびのび』をスムーズに運営できたのは、これまでの積み重ねと、地域の方が見守ってくださる方々との間に関係性が築けた成果だと考えています。

回数を重ねるごとに、関わる人々のコミュニケーションの機会も増えて、共感の輪が少しずつ広がっているのを実感しています。こうした見守りのボランティアの方が、今回結成した『チームわとなり』のメンバーになり、さらに、『のびのび』を利用する子どもたちも自ら進んで「メ



▲大山トレセンではしゃぐ子どもたち

ンバーになりたい!」と参加してくれています。

これからも年齢や性別にこだわらない横の関係性をさらに広げ、みんなで手を取り合っているいろいろなことに挑戦していきます。

みんなが関わってこそ『まちづくり』、これからも自分たちのできる範囲で楽しく取り組んでいきます。関わってみたいなど思ってください方は、ひと声かけてみてください。

◆問い合わせ先

まちづくり大山事務局

☎ 0859・53・8139